

令和 6 年度埼玉県景気動向指数懇話会の概要

1 日時 令和 6 年 11 月 18 日(月) 15:00~16:15

2 方法 Zoom ウェビナー

3 出席者 埼玉県景気動向指数懇話会委員 7 名及びオブザーバー 2 名

4 議題

- (1) 景気の谷(2020 年 6 月)以降の動きについて
- (2) 一致指数の個別系列について

5 内容

(1)景気の谷(2020 年 6 月)以降の動きについて
(事務局からの報告)

- ・ CI 一致指数は、2020 年 6 月以降は、2022 年前半まで上昇傾向にあり、それ以降は横ばい傾向、足元では若干下降傾向にある。県は、2024 年 4 月分から基準年改定を行い、国も県も共に 2020 年=100 となっており、2020 年以降は国と県の一致指数に大きな乖離はない状況である。
- ・ 県先行指数は、2020 年谷以降、2022 年 3 月まで大きく上昇し、その後下降している。県遅行指数は、2020 年 6 月の谷以降も 2021 年初めあたりまで下降傾向で、その後横ばいとなっている。
- ・ 第 17 循環の山(景気基準日付)については、「景気の山」の候補として 2023 年 6 月が候補として挙げられる。景気基準日付については、個別系列の遡及改定があることから、これまでも 2、3 年後に設定していた。国の設定の状況や県の個別系列の動向など、今後の動向を注視していく。
- ・ 県内総生産の動きと比較したところ、2015 年度以降は、上昇、下降の向きがおおむね一致している。
- ・ 埼玉県の最近の基調判断は、6 月以降直近に公表した 8 月まで 3 か月連続の「下方への局面変化」となっている。国の基調判断は、5 月から 9 月まで 5 か月連続の「下げ止まり」であった。

(委員からの意見及び結果)

- ・ CI 一致指数の最近の状況について、国の CI は下降後上昇しているが、県の CI は下落傾向にある可能性がある。
- ・ 確定的なデータではないため、第 17 循環の景気の山を決めるのは時期尚早と思われる。
- ・ 2020 年 6 月以降の動きについて、国と県の CI 一致指数はほぼ同じであり、差が縮小している可能性がある。今後の動向を注視したい。

(2)一致指数の個別系列について

(事務局からの報告)

- ・ CI 一致指数について、過去の本懇話会において製造業に偏りがちとのご意見があったことを受け、消費・サービス部門の個別系列の導入を検討した。
- ・ 第 3 次産業活動指数を候補とし、既存系列に追加又は既存個別系列との入替をして試算した結果を報告した。
- ・ 試算に当たっては、国の第 3 次産業活動指数を県民経済計算の県内総生産の産業ウェイトを活用して組み替えた第 3 次産業活動指数(埼玉県比率)を作成し使用した。
- ・ CI 一致指数の試算は、①10 個目の個別系列として追加、②百貨店・スーパー商品販売額と入替、③生産財出荷指数と入替、④有効求人倍率と入替の 4 パターンとした。
- ・ 試算結果は、いずれも現行の指数と顕著な変化が見られない結果となった。
- ・ 第 3 次産業活動指数の採用については、引き続き研究していくとともに、他の統計データの活用を模索するなど検討をしていきたい。

(委員からの意見及び結果)

- ・ サービス業の重要性が増していることを踏まえ、第三次産業活動指数の導入を支持する意見が複数出された。
- ・ 一方、県別のデータがないことや、全国の指数との差がつかないことが問題とされた。
- ・ このため、第三次産業活動指数の直近での採用は見送られることとなった。
- ・ また、将来的にサービス産業の比率が大きくなる可能性を考慮し、準備を進めるべき、との意見が出された。
- ・ 最終的に、事務局の説明内容を了解し、次回の懇話会は来年 11 月に開催されることが決定された。